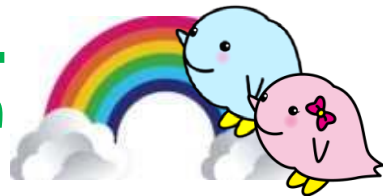




# ふたば診療所通信



医療法人社団 支心 事務局 <http://www.shishinn.com>  
〒085-0008 釧路市入江町9番14号  
tel0154(23)3001 fax0154(64)6611

facebook随時更新しております  
2015年6月15日 (第6号)

## 「人生最後の仕事」

これこれの情報が溢し、通信が便利になつても、めんどい情報は増えすぎてか  
らなかもしれませんが、正しい情報、知識は伝わりにくいものですね。  
僕自身、毎日勝手に押し寄せてくる膨大な情報に圧倒され、いったい何が真実  
なのか、わからなくなってしまう。

元口の思自懐がセツク、私は死ぬんでしょ？死ぬときは百しいんでしょ  
うっ  
何日くらい苦しむんだろう…。いったいどれくらい苦しいんでしょ？」

突然そう言われました。

確かに最後に痛がったり、苦しがつたり…すべての方が天寿を全うして安らかに  
召されるわけではありません。

「絶対苦しませません」本当はそう言い切りたいのですが、「できる限りのことを  
させていただきます」としか言えません。

苦しみのもとになる症状はたくさんあります。

医者が得意な薬を使った緩和医療では一番抑えやすいのは「痛さ」、一番の強敵は  
「だるさ」。強いだるさで「もう終わりにして欲しい」そう頼まれることがあります。

お腹の癌が引き起こす腸閉塞の痛さや吐き気、嘔吐は薬が飲めないので注射をして、それでも抑えきれなく  
て鼻から管を入れる。本人も家族も、だれも望まない選択肢しかなくなってしまうことがあります。

僕はいったい何人の方をお見送りしたんでしょうか

数えたことなどありませんが30年でおそらく1000人以上の方に死亡宣告をしたと思います。

かつて救急外来で一度に5人の方、5組の家族に宣告せざるを得なかったこともあります。

死を考えると、死ぬときを考え、死に方を考え、死ぬ前を考え

そして、今は死ぬまでを、生きている人生を考えるようになりました。

どんな病気があっても、障害があっても最後まで人生をあきらめずにその人らしく生き切っていたきたい！

だから緩和ケアを、ホスピスケアを人生最後の仕事にしようと選びました

少しずつ経験を積んで、できるだけ痛くならないように、できるだけ辛くならないように毎日考えています。

「取柄は眠るよに～といたい」自然に～は～が～に～で～の～つれよ

しかし症状が強く、薬で眠っていただくざるを得ない方もいらっしゃいます。

薬だけではなく介護員や看護師、ほかのスタッフと一緒に様々工夫してつらさを和らげる取り組みをしていま  
す。 勿論まだまだ未熟で、不十分なのはわかっています。

せめて自分の死を意識したときに「これからつらくなるんだろうな」そんな不安にさいなまれないように  
ケアできるようになりたいと思います。

2015. 6. 14 谷藤 公紀



お母様の弘子様  
と一緒に先生で



### ご存じですか?? 命のスープ

料理家 辰巳芳子先生が病床の父の為に作り続けたスープはやがて  
「いのちのスープ」と呼ばれるようになりました。～いのちの始まりに母乳があり  
終わりに唇をしめらす末期の水がある。人の命は絶えることのない水の流に  
寄り添って健やかに流れる～ (映画 天のしずく シナリオより抜粋)

緩和医療や終末期医療の従事者も辰巳先生の教室で学ばれているそうです。

ホスピス・ケアふわりの厨房スタッフも「あなたのために～命を支えるスープ」を読んで  
日々勉強中です!! 辰巳芳子先生HP:[www.tatsumiyoshiko.com](http://www.tatsumiyoshiko.com)

ご興味をもたれた方はご覧になってみて下さいませ。

# 「パパを看取って、今思うこと」～我妻 智子さんの手記

体調が悪く、それでも病院を拒否していた父を初めて胃カメラに連れて行き末期の胃ガンと診断されました。その日のうちに緊急入院。転移もしていて手術も出来ない状態…。抗ガン剤治療を始めましたが副作用に苦しみ「帰りたい」と嘆く父を病院に無理を言い退院させ、自宅に帰りました。帰宅し大喜びの父でしたが、みるみる体調が悪化し、下半身やお腹に水が溜まっていきました。癌について色々勉強した知識によると、明らかに末期ガンの症状なのに「絶対に治る・治す！」と信じて自分の状態を全く受け入れようとしない父。私の方が辛かった…。でも前向きで、負けず嫌いな父を否定したくなかったし出来るだけしてあげようと、笑顔で接して一緒に過ごした。でも、病状は転がり続ける様に悪化し続け、トイレからも戻ってこれない位の状態の父に「パパ、病院行こう？私、先生にお願いするから」と言って説得するも「嫌だ」と聞かない。…身体が風船みたいになっても拒絶する父。困り果てた私が、藁にもすがる思いで出会ったのが、ふたば診療所・谷藤先生。「とにかく診て欲しい」とお願いしました。「パパ、病院に行かなくても家に来てくれる先生がいるんだって！来て貰おうか？」と話したら、やはり不安が張り詰めていたのでしょう「本当に？いやあ来て貰いたいなあ」と納得してくれそしてすぐ対応して頂きました。初診時、先生は私に玄関先で「もって1ヶ月。覚悟して下さい。」と言いました。次の日から、状態を緩和する為に20日程入院し、ある程度体調を整え退院。その日から往診を再開して頂き、フル装備の医療体制に父も驚愕。それからは、父を中心とした毎日。2人で新婚の様に仲良く過ごし、嫌がることはしない・否定をしないと私なりのルールを作り、父を尊重して暮らしました。



お父さんと娘さんの最期のツーショット写真。お亡くなりになる3ヶ月前だそうです。

いつ何があってもおかしくない状態なのに「治る宣言」をする父をとにかく不安にしないように…先生も看護師さんも大変だったと思う。でも先生には自慢話をするほど心を開き、笑顔も増えたと良かった。でも恐れていた時間はもう迫っていました…早かったです。一番最初の診断から5ヶ月近くになった頃「痛い痛い」と言うようになり、薬も増えて、亡くなる3日前には薬も拒絶する様になり。そんな中、谷藤先生は夜中だというのに急いで診に来てくれました。「我妻さん、どうする？病院に入院するかい？もう戻って来れないけど。」その言葉にキョトンとする父は、目で私に答えを求め「パパ、どうする？私も居ない時もあるし、安心だから病院行こうか？と言ったら「う～ん…」と言う父。先生は「僕の所に来るかい？」と仰ってくれましたが…。どうしてもこの私と一緒に家に居たい！！！！と言うので「パパわかったよ！仕事しばらく休んで一緒に居るから大丈夫！早く治そうね！」と伝えましたが、先生は「もって1週間。早く2～3日…かな」と私に話しました。それから3日後。最期の最期まで自分でトイレに歩き、息が止まるまで男らしくした父。

「トイレにいつかおきたい」という父の手を引き、移動した所で力尽き、倒れ込んだ父。父が自分の腕の中で、永遠の眠りについた姿を目の当たりにし、言葉が出なかったけど、病気と闘っている父には涙は絶対に、一度も見せなかった私。静か～に、旅立ったのを確認して、泣いちゃいました…。

谷藤先生。先生に出会えたお陰で、やんちゃで父に心配ばかりかけていた私も、最期はずっと父の側に居てあげられたので少しだけ親孝行できました。本当に感謝しております！全てを病院にお任せして、自分の手で世話をすることなく最期を迎えていたら、どんなに後悔したかと思えます。

最期まで自分らしく、1滴残らず力を振り絞って、少し早かったけど、74ページの人生を無駄なく過ごせた父は幸せだったと思います。かけがえのない貴重な体験ができ、自分自身の成長にも繋がりました。

谷藤先生をはじめ、他、スタッフの皆様方、丁寧に最期までお世話していただき、本当にありがとうございました。

編集  
後記



今回は平成25年12月にお父様を看取られた我妻智子様に体験手記を寄せて頂きました。あれから約1年半の月日が流れましたが、その間には様々な想いが駆け巡ったことと思います。今、こうして手記を寄せて頂けた事。心から感謝申し上げます。さて、釧路にもさまざまな花が咲き、新緑も美しい季節になりましたね。是非この機会を逃すことなく森林浴にお出かけ下さいませ。近場でも、春採公園や武佐の森、釧路湿原の散策路などエネルギーチャージ出来そうなスポットがたくさんありますね。自然に恵まれた釧路で暮らせる恩恵をいただきましょう！！家庭菜園やお庭で草花を楽しまれる方も多いと思います。私もトマト・なす・ズッキーニ・イモなど素人ながら育て始めましたよ。今から収穫が楽しみです！

東